

現在、五十億円とも六十億円ともいわれている「入れ歯安定剤」の市場。薬局・スーパーへ行く数十種類の安定剤が並べられ、どれを選んでよいか迷ってしまう。迷った場合、いつもテレビのCMでよく見かけるものを買ってきて使ってみるが、どれも一長一短があつて、どの安定剤が良いのかわからない。というような経験は、入れ歯を使って

いる方にかなりあると思われる。

さて、入れ歯安定剤を使うことが良いか悪い

かについて、もちろん使わないに越したことはありませんが、安定剤の使い方によっては多様化した入れ歯の患者さんの要望に応えることができると考えられます。

本誌「いのち輝く」に登場されるお元気で活躍の高齢者の皆さんのように、人前で長時間お話しの方・吹奏楽器（尺八など）を演奏される方・詩吟を唄う方・カラ

オケ大会に出場される方などは、入れ歯の適合も良く通常の使用では何ら問題がなくなるとも、観客の前ではたとえ一瞬たりとも入れ歯がはずれるような不安を感じるのは困るということを訴えられます。このように、入れ歯自体の適合は良いけれども、さらに精神的な安心感を得るために入れ歯安定剤を使うということは、それなりに

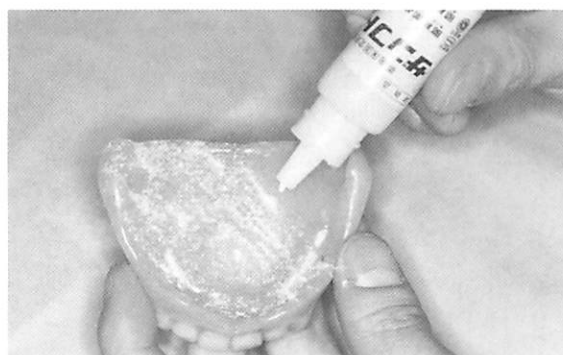
意義あることだと思われます。

さて、市販の入れ歯安定剤には、
①パウダータイプ（粉末状）
②ペーストタイプ（粘土状）
③両面テープタイプ（テープ状）
の、三種類の形状があります。一般に、入れ歯安定剤に求められる条件は次のとおりです。
①層にならないこと
入れ歯と粘膜の間に層（厚み）

入れ歯安定剤の話

その選び方と使い方

ができる安定剤（ペーストタイプ）を長時間使用することはよくありません。ペーストタイプを用いないと入れ歯が吸着しないのは、入れ歯の適合が悪いからであつて、適合が良ければパウダータイプで十分維持できます。
②水洗いで簡単に落とせること
入れ歯は原則的に毎食後洗うことからは、水だけで簡単に洗



パウダータイプの使用法
(入れ歯の適合が良いことが条件)

い流せることが必要です。また、口の中にもベタつきが残らないことが望まれます。

③からだに害のないこと
粘膜への刺激がなく、余剰の安定剤を飲み込んでも胃腸の具合が悪くならないことが重要です。

以上まとめると、「入れ歯安定剤の使用の必要性を感じたときには、まずは入れ歯の調整や修理が必要となった時期である」その上で入れ歯安定剤を使用する場合は、水溶性でからだに害のないパウダータイプを選ぶ」ということです。

(徳島市歯科医師会)